

## 柳井地域領家変成帯の斜方輝石を含む塩基性変成岩

## Orthopyroxene-bearing metabasites from the Ryoke metamorphic rocks in the Yanai district, SW Japan

# 池田 剛[1]

# Takeshi Ikeda[1]

[1] 九州大・理・地球惑星

[1] Earth and Planetary Sci., Kyushu Univ

山口県柳井地域の領家変成帯の塩基性変成岩から斜方輝石を含む共生を記載し、その産出の意義について考察した。

領家変成岩類は泥質岩、珪質岩を主体としており、塩基性変成岩の産出は稀である。特に斜方輝石を含む塩基性変成岩の記載は伊那地域の1露頭に限られており(Hokada, 1996)、領家変成作用の最高変成度は、角閃岩相高温部と認識されている。今回、山口県柳井地域の領家変成帯の7露頭から、斜方輝石を含む塩基性変成岩の産出を確認した。本地域は泥質岩を用いて変成分帯されており、斜方輝石を含む塩基性変成岩の露頭は、最高変成度のザクロ石-堇青石帯に広く分布する。斜方輝石は不規則な外形を呈している。斜方輝石、普通角閃石の周囲にしばしばカミングトン閃石の集合体が産する。普通角閃石やイルメナイトは斜方輝石の包有物としても産する。これらの微細組織から判断される最高変成条件における鉱物組み合わせは、

斜方輝石 + 単斜輝石 + 普通角閃石 + 黒雲母 + イルメナイト + 斜長石 + 石英  
斜方輝石 + 普通角閃石 + 黒雲母 + イルメナイト + 斜長石 + 石英

と推定される。含水鉱物である黒雲母や普通角閃石が斜方輝石との間に反応組織を持たず、共存していたと考えられることから、領家変成作用の最高変成度は、従来の角閃岩相高温部ではなく、グラニュライト相低温部であるといえる。